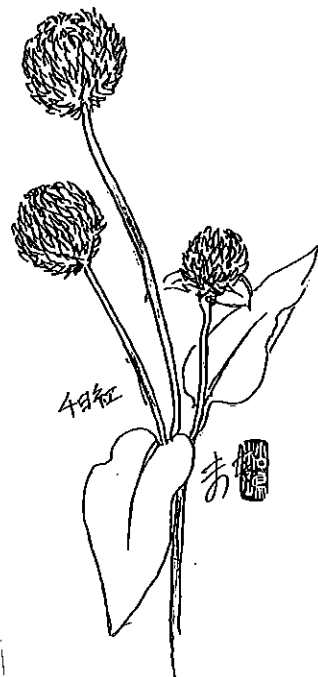


頑張るのみ！

1学期に行われた全国学力学習状況調査(3年国・数・理)と県学力調査(2年国・数、3年英)の結果が送られてきました。その結果ですが・・・残念ながら、いずれの教科も全国、県の平均を下回っていました。このことについては、各教科担当で分析し、その具体的な対策についても全職員で確認を行ったところです。教科は違えど学習の基盤はやはり国語力です。具体的には「しっかり読んだ的確に把握する力」や「文字や言葉で、正確に表現する力」を身につけることが大切です。全ての授業を通して、これらの学習基盤を定着させるよう、あらためて確認したところです。

10月には中間テストが予定されています。まずはこのテストに照準を合わせ、しっかり学習に取り組んで欲しいと思います。勉強は誰の為でもなく、自分の為に頑張らなければなりません。授業をしっかり聞き、復習を徹底する。スモールステップで目標を設定し、一つ一つをクリアしていく。これが向上の鍵になります。ぜひ「しっかり読んだ的確に把握する力」と「文字や言葉で、正確に表現する力」を身に付けるよう、日々の学習に励んでほしいと思います。



神無月

早いもので9月もあと4日。年度の折り返しである10月(神無月)を迎えます。神無月は、もともと「神の月」という意味。古代では「の=な」だったので、神な月(かむなづき)と言っていたと考えられています。なぜ神の月かというと、「神聖な五穀を収穫し、神々にささげて感謝する大事な季節だったから」とされています。ここで一つの疑問。神の月なのになぜ「な」のあてを「無」にしたのか。そこは定かではありませんが、島根県・出雲地方では古くから神無月ではなく神在月と呼んでいるそうです。

さて、10月も行事満載です。6日(木)には市中総体駅伝競走大会が、12日(水)～14日(金)には中間テストが、21日(金)には文化発表会・合唱コンクールが予定されています。部活動でも各種大会が行われるようで、本当に多忙を極めます。昔から、「苦しいときの神頼み」と言いますが、神に頼るだけでは結果は残せません。結局は「努力に勝る天才なし」なのです。努力を積み重ねた人にこそ神が宿るのです。「神通力」という言葉もあります。「神通力」が発揮できるよう、「神が無い月」ではなく「神が在る月」と言えるよう、毎日毎日、確実に努力を重ねてほしいと思います。

皆さんご存じ七福神→大黒天、恵比寿、毘沙門天、弁財天、福祿寿、寿老人、布袋 です。
「7つの災難が消え、7つの福が生まれる」ということを意味する仏教の経文に由来している。